

も く じ

ごあいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・	中国地区会会長	鈴木 明子	1
第41回日本家庭科教育学会中国地区会総会報告・・・・・・・・	庶務	梶山 曜子	2
	会計	中村 誉子	
日本家庭科教育学会中国地区会共同研究について・・・・・・・・	岡山大学	佐藤 園	6
2021年度第41回研究発表要旨集及び講演会資料・・・・・・・・	山口大学	森永 八江	7
研究室だより・・・・・・・・・・・・・・・・	広島大学	村上かおり	19
学校現場から・・・・・・・・・・・・・・・・	倉敷第一中学校	森田 美和	20
日本家庭科教育学会本部だより・・・・・・・・・・・・・・・・	福山市立大学	正保 正恵	21
	広島大学	鈴木 明子	
2022年度第42回総会及び研究発表&講演会のご案内・・・・・・・・	広島大学	鈴木 明子	27
事務局だより・・・・・・・・・・・・・・・・	庶務	梶山 曜子	28

ごあいさつ

中国地区会会長 鈴木 明子（広島大学）

2021年10月より地区会長をさせていただくことになりました。2年間どうぞよろしくお願ひいたします。本地区会が設立された1981年当時、私は広島大学の4年生で、当時福山市にあったキャンパスで卒論研究に励んでおりました。高等学校家庭科の男女共学必修化に向けての活動も盛んになり、新たな家庭科教育の創造へのエネルギーがあふれていた時代であったように思います。その後40年間、本中国地区会は、日本家庭科教育学会とともに発展を遂げてまいりました。これも一重に先輩方のたゆまぬご尽力の賜物と感謝申し上げます。この度、本地区会及び学会の発展に寄与された島根大学名誉教授 多々納道子先生が、日本家庭科教育学会の功労賞を受賞されることになりました（2022年7月大会授賞式）。地区会の一員として心よりお喜び申し上げます。来年度の地区会では、多々納先生を講師にお迎えし、「時代を切り拓いてきた家庭科～家庭科研究からみた過去・現在・未来～」というテーマでご講演いただく予定です。家庭科教育の明日を創るための糧を先生から頂戴できると思います。日程などの詳細を、本会報にもご案内しておりますので、研究発表へのエントリーもあわせて、多くの皆様に大会に参加いただけることを願っております。

コロナ禍に見舞われて2年間、生活様式の変化に対応せざるを得ない中で、私たちは多くのことを学びました。自分自身の、あるいは私たち人類の「よりよい生活」、「豊かな生活」とは何かについて考える機会を与えられたとも言えます。その背景にあるライフスタイルの多様性、生活要因の関係性や複雑性といったテーマにどのように取り組んでいくのか、子どもの育ちに関わる理想を追求し続けながら、自分の信念に基づく実践をいかに実現させていくかなど、各自が真剣に考えるべき時を迎えているように思います。また、現在起こっている難しい世界情勢の中で、私たちが「家庭科」の使命をどのように認識し、次世代に伝えていくべきか、改めて問われています。命を大切に、異なる考えをもつ他者と家庭科教育の実践と研究を通してつながることが、子ども達の明るい未来の源泉になるものと信じています。

このような中、岡山大学の佐藤先生から、「コロナ禍における家庭科授業」というテーマで共同研究の提案をいただきました。改めて家庭科の学びの本質を子ども達とともにみつめる授業のあり方について、会員の皆様とともに考えて参りたいと思います。さらに多くの皆様に参加いただけることを期待しております。



第 41 回日本家庭科教育学会中国地区会総会報告（オンライン）

令和3年度の日本家庭科教育学会中国地区会の研究発表と講演会はコロナ禍のためZoomによるオンライン開催となりました。

[報告事項]

1. 令和2年度 庶務報告

① 地区会現況報告（令和3年7月7日 現在）

鳥取県5名 広島県41名 岡山県9名 島根県28名 山口県10名
計 93名 （参考：令和2年8月100名）

② 令和2年度 事業報告（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

令和2年6月 日本家庭科教育学会中国地区会第40回研究発表会延期案内・総会紙面会議の案内送付
令和2年8月 役員会開催（紙面会議）
令和2年8月 日本家庭科教育学会中国地区会第40回総会（紙面会議）並びに研究発表会（中止）
令和2年11月 共同研究出版物郵送
令和3年3月 会報41号発行

2. 令和2年度 会計報告

*一般会計（自：令和2年4月1日～至：令和3年3月31日）

【収入の部】

（単位：円）

費目	予算額	決算額	備考
前年度繰越金	257,525	257,525	
地区会費	100,000	70,000	1000円×70人分
本部からの交付金	52,830	51,480	
教大協からの補助金	25,000	0	
雑収入	1	2	預金利息
合計	435,356	379,007	

【支出の部】

（単位：円）

費目	予算額	決算額	備考
総会費	0	0	紙面会議のため
通信費	20,000	29,904	会報41号
事務用品費	8,000	0	
会議費	0	0	紙面会議のため
印刷費	30,000	0	
雑費	1,000	0	
共同研究費（特別会計）	100,000	100,000	
予備費	276,356	0	
次年度繰越金	0	249,103	
合計	435,356	379,007	

<次年度繰越金> 249,103円

*特別会計 (自：令和2年4月1日～至：令和3年3月31日)

【収入の部】

(単位：円)

費目	予算額	決算額	備考
前年度繰越金	706,072	706,072	
一般会計から繰入	100,000	100,000	
利子	6	6	
合計	806,078	806,078	

【支出の部】

(単位：円)

費目	予算額	決算額	備考
共同研究出版費(買上げ)	420,000	404,800	教育図書への支払
通信費	50,000	29,330	出版物発送代
雑費	1,000	0	
予備費	335,078	0	
次年度繰越金	0	371,948	
合計	806,078	806,078	

<次年度繰越金> 371,948円

上記の通り、報告いたします。

令和3年4月10日

会計：中村 誉子

3. 令和2年度 会計監査報告

令和2年度の会計について、領収書、帳簿を照合して監査した結果、適正に処理されておりましたので報告いたします。

令和3年 4月 20日

会計監査： 鎌野 育代

令和3年 4月 14日

会計監査： 森永 八江

[協 議 事 項]

1. 日本家庭科教育学会中国地区会の回数について

令和2年度の第40回総会（紙面会議）と研究発表会（中止）を第40回とカウントする件

2. 令和3年度事業計画（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

令和3年7月 メール役員会議

令和3年8月 役員会開催（オンライン会議）

令和3年8月 日本家庭科教育学会中国地区会第41回総会並びに研究発表会（オンライン会議）

令和4年3月 会報42号発行

3. 令和3年度会計 予算

*一般会計（自：令和3年4月1日～至：令和4年3月31日）

【収入の部】

(単位：円)

費 目	決算額	予算額	備 考
前年度繰越金	257,525	249,103	
地区会費	70,000	93,000	1,000円×93人分
本部からの交付金	51,480	52,050	8/5入金済
教大協からの補助金	0	25,000	10月末入金予定
雑収入	2	2	
合 計	379,007	419,155	

【支出の部】

(単位：円)

費 目	決算額	予算額	備 考
総会費	0	100,000	zoom 契約料他
通信費	29,904	30,000	会報42号送料他
事務用品費	0	0	
会議費	0	0	
印刷費	0	10,000	
雑費	0	0	
共同研究費（特別会計）	100,000	50,000	特別会計へ
予備費	0	229,155	
次年度繰越金	249,103	0	
合 計	379,007	419,155	

***特別会計**（自：令和3年4月1日～至：令和4年3月31日）

【収入の部】

（単位：円）

費目	決算額	予算額	備考
前年度繰越金	706,072	371,948	
一般会計から繰入	100,000	50,000	令和3年度分
利子	6	6	
合計	806,078	421,954	

【支出の部】

（単位：円）

費目	決算額	予算額	備考
共同研究出版費（買い上げ）	404,800	0	
通信費	29,330	30,000	
雑費	0	0	
予備費	0	391,954	
次年度繰越金	371,948	0	
合計	806,078	421,954	

4. 新役員について

昨年度の総会で改選となっていた各県の役員でしたが、対面の総会が叶いませんでしたので、1年間継続で務めてまいりました。今年度、改めて各県の役員を交代し、以下の通り決定しましたのでお知らせいたします。

会長：鈴木 明子（広島県・広島大学大学院人間社会科学研究科）

副会長：西尾 幸一郎（山口県・山口大学大学院教育学研究科）

監査：佐藤 園（岡山県・岡山大学大学院教育学研究科）

監査：竹吉 昭人（島根県・島根大学教育学部附属義務教育学校）

5. 共同研究について

新しい共同研究についての詳細は次ページに掲載

6. その他

特になし

日本家庭科教育学会中国地区会共同研究について

会員の皆様にお知らせした今回の共同研究のテーマ・期間・趣旨は、以下の通りです。

共同研究テーマ：「コロナ禍における家庭科の授業」
共同研究の期間：2021年12月（共同研究参加締め切り）～2023年3月末（報告書完成）
共同研究の趣旨：
2020年1月上旬にわが国で初めての新型コロナウイルス感染症が確認されて依頼、私たちは恐怖と不安の中で生活を送ってきています。
それは小・中・高等学校等をはじめとして大学教育にも大きな影響を及ぼし、特に、実験・実習を伴う家庭科に関しては、様々な制約の中で授業を実践していかなければならず、日々、家庭科に携わっておられる先生方は、大変なご苦勞の中、授業や研究をしてこられたと思います。
確かにコロナ禍での家庭科の授業では、従来、できていたはずの実践ができず、授業内容を変更したり、子どもたちの学習活動を縮小したりしなければならないことも多かったと思いますが、逆に、コロナ禍の家庭科の授業であったからこそ、生まれた新しい試みや研究等もあったのではないかと考えます。
先生方がコロナ禍において実践されてきた家庭科の授業や、家庭科の研究など、日本家庭科教育学会中国地区会として、記録に残し、その中で明らかになった家庭科に関する新たな問題点や今後の家庭科で促進していくべき課題などを検討していくことができれば、と考えております。

2022年2月末日の締め切りまでに、下記の9件の申し込みを頂きました。ありがとうございました。

日本家庭科教育学会中国地区会共同研究：「コロナ禍における家庭科の授業」

	県	代表者	所属	学校段階	研究題目
1	山口	町田万里子	学部フロンティア大学付属香川高等学校	高 校	コロナ禍における保育実習
2	山口	西尾幸一郎	山口大学	小学校	小学校家庭科における海外の小学校との遠隔合同授業の実践
3	島根	鎌野 育代	島根大学	中学校	コロナ禍における消費者教育のあり方
4	島根	竹吉 昭人	島根大学附属義務教育学校前期課程	小学校	未定
5	島根	多々納道子	島根大学名誉教授	中学校	オンライン授業の可能性と中学校における実験・実習の授業づくり(仮)
6	広島	梶山 曜子	広島大学大学院生	高等学校	高等学校専門科における家庭科の手仕事体験を取り入れたコロナ禍の地域連携・協働の取り組み—高校生と作る「ままごとキッチン」講座の実践から—
7	広島	伊藤 圭子	広島大学	中学校	コロナ禍における生活課題解決学習の検討
8	岡山	森田 美和	倉敷市立倉敷第一中学校	中学校	未定
9	岡山	佐藤 園	岡山大学	大 学	岡山大学における初等家庭科授業研究・内容研究の実践と「教科内容構力」の育成—コロナ禍におけるオンデマンド授業の実践と評価—

締め切りは過ぎてしまいましたが、引き続き、多くの会員の方に、本共同研究にご参加頂ければと思います。共同研究の期間は、上記に示した通りですが、2020年1月以降の家庭科の授業実践や共同研究でも構いませんし、お一人での実践や研究でも構いません。共同研究に参加して頂ける方は、下記の項目に必要な事項を記入の上、佐藤までメールでお知らせ下さい。どうぞよろしくお願い致します。

共同研究代表者氏名（所属）：
共同研究代表者連絡先：郵便番号、住所、メールアドレス、電話番号
共同研究者氏名（所属）：
研究テーマ（学校教育段階（大学を含む））：
返送先： ssono@okayama-u.ac.jp （岡山大学 佐藤園）
メールでの返送が難しい場合は、下記まで郵送かFaxでお願い致します。
〒700-8530 岡山市北区津島中3-1-1 岡山大学教育学部 家政教育講座 佐藤 園(宛て)
Fax：086-251-7679

日本家庭科教育学会中国地区会

第 4 1 回 研究発表会・講演会・総会

研究発表・講演 要旨集

日時：令和 3 年 8 月 2 8 日(土)

場所：zoom によるオンライン開催

山口大学

山口市吉田 1 6 7 7 - 1

TEL 0 8 3 - 9 3 3 - 5 4 0 7

日 程

1 3 : 0 0 ~	受付
1 3 : 2 0 ~ 1 3 : 5 0	総会
1 4 : 0 0 ~ 1 4 : 4 5	研究発表*
1 4 : 4 5 ~ 1 5 : 0 0	休憩
1 5 : 0 0 ~ 1 6 : 3 0	講演会
1 6 : 3 0 ~	閉会

総会・研究発表会・講演会の zoom 入室の切替を行うため、それぞれの間の時間を長く設定してあります。

研究発表（14:00～14:45）

14:00～14:15 1. 小学校での掃除教育が児童の家事遂行に及ぼす影響に関する予備的検討

山口大学教育学部 ○西尾幸一郎

14:15～14:30 2. 中学校家庭科教員向けの家族学習におけるロールプレイング研修の効果

島根大学教育学部 ○鎌野 育代

14:30～14:45 3. 家庭科の生活文化の概念検討と授業の類型化

広島大学大学院人間社会科学研究科 教育科学専攻（院生） ○弘下 由菜
広島大学大学院教育学研究科 鈴木 明子

※ 発表時間 12分、質疑応答3分（1鈴 10分、2鈴 12分、3鈴 15分）

講演会（15:00～16:30）

演題「塩のふしぎ入門

～動画、実験など五感を通じて塩を知ろう～」

講師 谷井 潤郎 先生

（公益財団法人 塩事業センター 企画部 専任調査役）

小学校での掃除教育が児童の家事遂行に及ぼす影響に関する予備的検討

山口大学教育学部 ○西尾幸一郎

1. 目的

日本の小学校では掃除教育が重視されており、ほとんどの小学校で、毎日のように児童による校内の清掃が行われてきた。掃除教育によって、公共性・社会性の育成や、基本的な生活習慣を形成することなどが主要な目的とされているが、それらの教育的効果を科学的に検証した研究はほとんどみられない。そこで、本研究では、大学生の対象とした調査を行い、掃除教育と児童の家事参加にどのような関連が見られるかについて予備的な検討をおこなった。

2. 方法

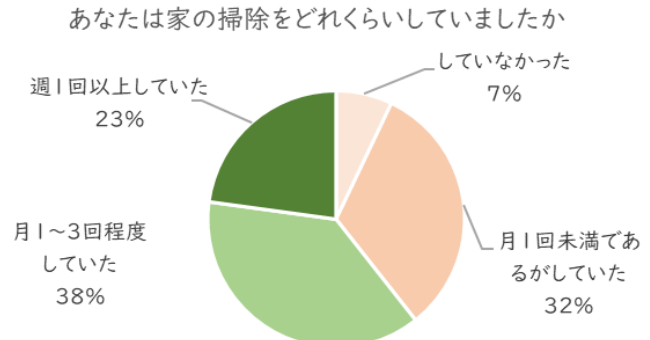
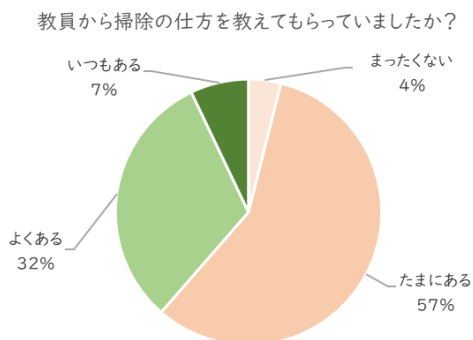
調査対象者は、Y大学教育学部2学年の男子48名、女子79名の計127名を対象とした。調査はWebによるアンケートであり、内容は、属性に関する事項に加えて、小学校在学時における学校清掃の状況、教員の関わり、学校清掃に対する意識や態度、家庭での掃除に対する家族の関わりに関する25項目を調査した。調査期間は2021年5月とした。分析に当たっては、

3. 結果

児童が学校掃除を行う頻度は「ほとんど毎日」が93%であった。掃除の仕方としては、無言清掃や自問清掃など、クラスメイトとの会話が制限されていたとする回答が77%を占めた。教員の関わりとしては、教員から掃除の仕方を教えてもらうことが「いつもある／よくある」は39%、掃除の時に教員が「いつも一緒にいた」は32%であった。掃除の時に不在であることも少なくないが、80%の児童は先生が見ていなくても掃除を自発的・自律的に行っている。ただし、掃除の時間以外でも教室や学校をすすんで整えるようにしていたものは43%に過ぎない。

一方、家庭で掃除を行う頻度は、「週1回以上／月1～回程度（習慣的遂行群）」が61%、「月1回未満／していなかった（非習慣的遂行群）」が39%であった。家族の関わりとしては、家族から掃除の仕方を教えてもらうことが「いつもある／よくある」は35%、掃除の時に家族が「いつも一緒にいた」は20%であった。

家庭での掃除の頻度から「習慣的遂行群」と「非習慣的遂行群」の2群に分け、各項目の得点を比較した。t検定を行った結果、習慣的遂行群は、非習慣的遂行群と比べて、教員から掃除の仕方を教わるが多いことが分かった(p<.05)。一方で、学校清掃に対する意識や態度、家庭での掃除に対する家族の関わりとの関連は認められなかった。



中学校家庭科教員向けの家族学習におけるロールプレイング研修の効果

島根大学教育学部 ○鎌野 育代

1. 目的

戦後誕生した家庭科における家族に関する学習は、安定した扱いを受けてきたわけではなく、家族の学習が改めて位置付けられたのは、平成元年の「家庭生活」の領域からである。ここでの学習指導要領の指導書には、単なる知識・理解にとどまらず、それぞれ関連を図りながら調査・観察、事例研究、シミュレーション、ロールプレイングなどを含めた実践的な活動を通して学習させとあり、継続してロールプレイングという学習方法が奨励されてきたことがわかる。しかし、前述したように、家族学習は継続して家庭科教育に位置づいていたものではないこと、加えて鎌野（2018）は中学校の家庭科の教員を対象とした調査からは、家族学習やロールプレイングを行うことについて、近年の多様な家族構成やプライバシーの問題から少なからず難しさを感じていること、ロールプレイングについては、授業の目的や方法、ロールプレイングの学習後にどのようにまとめたらいいかわからないので、難しいと感じている教員がいることを報告している。そして、家庭科の教員が自信をもってロールプレイングに取り組むためにも、ロールプレイングの体験を含んだ研修の実施の重要性を報告している。

そこで、本研究では、平成27年度に行ったC市教育委員会主催のロールプレイングの研修の6年後の効果を明らかにしたいと考えた。ここでのロールプレイングの研修の効果をあきらかにすることで、今後の家庭科教育におけるロールプレイングの研修のあり方についての知見を提示できるものとする。

2. 研究の方法

研究の対象は、平成27年度のC市教育委員会主催のロールプレイングの研修である。6年後の効果を明らかにするために、C市の家庭科教員と研修を受けていないS市とI市の家庭科教員に同じ内容のアンケートを行い、C市で行った研修の効果をみる。アンケートの実施は、C県内で行われる家庭科の教員を対象とした8月に行われる研修において、指導主事の説明のもと、調査の目的等を説明の後、アンケートを実施した。

3. 研究の結果

結果よりC市以外のS市、I市の家庭科教員にロールプレイングの研修の経験は非常に少ないことが明らかとなった。また、研修を受けた、受けないにかかわらず、家族学習の難しさ、プライバシーへの気遣いは変わっていない。さらに、ロールプレイングの研修に対しての関心は低くなく、今後積極的に研修を広めていくことが課題として考えられる。

家庭科の生活文化の概念検討と授業の類型化

広島大学大学院人間社会科学研究所 教育科学専攻（院生）○弘下 由菜
 広島大学大学院人間社会科学研究所 鈴木 明子

1 目的

生活文化は日常生活に深く関わり、生活道具などのモノや技術の他に、先人の知恵や価値など内面に關わるものも含まれる（石川 1998）。豊かな生活を創造することを目的とした家庭科の中で、生活文化と自分の生活との関係を考えさせることは、自身のライフスタイルや生活課題をみつめ、具体的に検討していくことにつながる（弘下 2020）。また教師が多様な生活文化の教材を使って子供たちの考えや環境に合わせて柔軟に生活文化について思考を深めさせることは、生活課題を見直し解決するきっかけにもなるであろう。しかし、吉川ら（2014）は「伝統や文化に関する教育」について、教材論（何が「伝統や文化」なのか）及び内容構成論（「伝統や文化」で何を学ばせるのか）が欠落していると述べている。家庭科では教科独自の見方・考え方の視点として、「生活文化の継承・創造」が挙げられているが、学習指導要領においても生活文化の何をどのように扱うのか具体的に示されていない。また国語科や社会科では、それぞれの教科の中で伝統や文化の概念の追究がなされているが、家庭科では、生活文化の捉え方はほとんど検討されていない。

そこで本研究では、家庭科の生活文化の捉え方について先行研究からその特性や要因について検討するとともに、中・高等学校家庭科の生活文化に関わる授業を類型化することによって、生活文化の扱われ方の現状と課題を追究することを目的とする。

2 方法

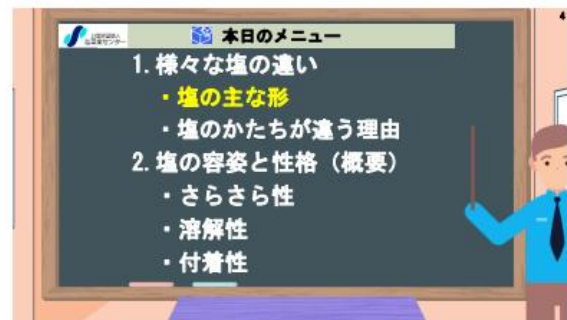
生活文化の概念検討は、生活文化の特性（富田 1991、谷 1996）及び生活文化に影響を及ぼす要因（村田 1991）を整理し、家庭科の教科目標や学習対象の中で生活文化をどのように捉えることができるか探った。家庭科の生活文化に関わる授業の類型化は、吉川ら（2014）の伝統・文化の捉え方や教育的意義等から分析を行う方法と、大畑（2010）の教材の構成を時間軸の視点や展開方法から分析を行う方法の2つの方法を用いて、中学校「技術・家庭 家庭分野」及び高等学校「家庭基礎」の授業を分析した。データベースは Cinii を用いて 2006 から 2018 年までの実践研究や、都道府県教育委員会 HP の生活文化の継承・創造に関わる目標や内容、題材等がみられる学習指導案を抽出した。

3 結果

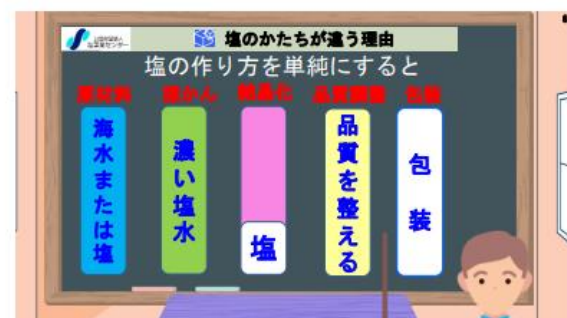
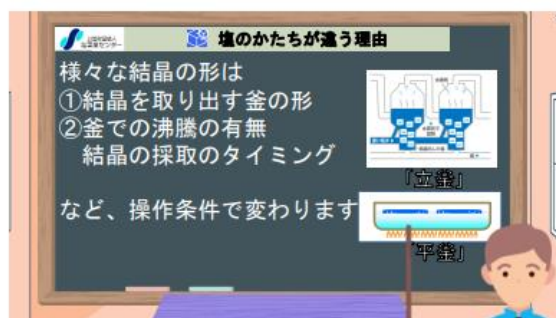
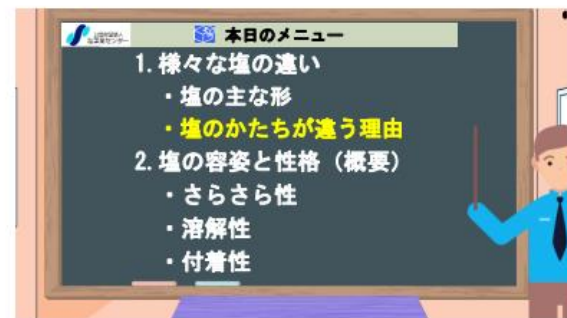
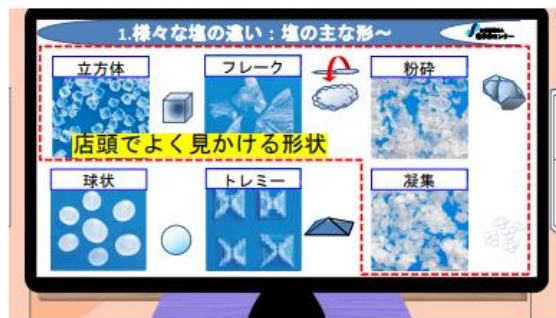
富田と谷によると、生活文化には「時間的・空間的伝達を通して継承・伝播を行う」、「たくましく、うまく、よく、生きてゆく諸段階の全部を含む」、「生活文化の本質は生活創造である」といった特性があり、このような生活文化の捉え方は、家庭科の目標と非常に親和性があると考えられる。また村田によると、生活文化に影響を及ぼす要因として「自然環境」、「社会環境」が挙げられており、生活文化は個人（自分）と自然や社会が相互に関わり合って変化するものと捉えることができ、家庭科の学習対象である生活の営みの一部であると考えられる。

実践事例を抽出した結果、「家庭分野」は食生活 14、衣生活 6、住生活 1 事例、「家庭基礎」は食生活 7、衣生活 5、住生活 2 事例を分析対象とした（計 35 事例）。「家庭分野」、「家庭基礎」とともに、和服の着付けや調理実習等の体験活動を通して生活文化の価値を知る、理解する「伝統受容」がみられ、「家庭分野」16 事例、「家庭基礎」11 事例であった。一方、学んだ文化を生活の中でどのように生かしていくかを考える活動は「家庭分野」12 事例、「家庭基礎」6 事例みられたが、文化を新たに生み出す「伝統創造」はどちらもみられなかった。また自分なりに文化に対する受け止めを表現する「歴史的文化態度育成型」は「家庭分野」3 事例、「家庭基礎」2 事例、文化の発展について考える「持続的文化態度育成型」は「家庭分野」7 事例、「家庭基礎」4 事例であったことから、態度育成に向けた授業実践は少ないことが読み取れた。

【講演会資料】



1



2

1. 様々な塩の違い：塩の形が違う理由

原材料 塩は海水
海水を濃くする
方法は異なるが目的は同じ
塩の結晶を取り出す
結晶の大きさや大きさが決まる
品質を整える
結晶の大きさを揃えたり、サラサラにしたりする

1. 様々な塩の違い (まとめ)

1. 様々な塩の違い

- 塩の主な形
- 塩のかたちが違う理由

① 塩の主たる原料は海水
② 様々な結晶の形や大きさは「溶液から結晶が析出する時」、「目的の品質に仕上げる時」の釜(装置)等の操作条件で決まる。

本日のメニュー

1. 様々な塩の違い

- 塩の主な形
- 塩のかたちが違う理由

2. 塩の容姿と性格 (概要)

- さらさら性
- 溶解性
- 付着性

関係 (例外有)

- 結晶の大きさ
- 結晶の水分
- 水分

塩の容姿と性格 (概要) : さらさら性

		粒の大きさ	
		小	大
水分	多い (5%)	塩1	塩2
	少ない (0.1%)	塩3	塩4

最もさらさら性の高い塩はどれでしょう？

5

塩の容姿と性格 (概要) : さらさら性

		粒の大きさ	
		小	大
水分	多い (5%)	塩1	塩2
	少ない (0.1%)	塩3	塩4

最もさらさら性の高い塩はどれでしょう？

1. 様々な塩の違い：塩の形が違う理由

水分が多い
サラサラしていない
粒径が小さい
粒径が大きい
サラサラしている
水分が少ない

1. 様々な塩の違い：塩の形が違う理由

水分を加えました

		粒の大きさ	
		小	大
水分	多い (5%)	塩1	塩2
	少ない (0.1%)	塩3	塩4

すり潰しました

市販されている塩

1. 様々な塩の違い：塩の形が違う理由

水分が多い
No.1 (粒No. 3+水) さらさらしていない
No.2 (粒No. 4+水) さらさらしている
No.3 (粒No. 1+水) さらさらしている
No.4 (粒No. 2+水) さらさらしていない
粒径が小さい
粒径が大きい
水分が少ない

6

体験2：結晶の大きさと溶解性

【体験3-1】大きな結晶と小さな結晶の溶けるはやさ
(1) 薄い濃度

【体験3-1】

①水のふたを開けて下さい ②少量の塩
・黒のNo.1 ・赤のNo.1
を入れて下さい。

体験2：結晶の大きさと溶解性

【体験2-1】大きな結晶と小さな結晶の溶けるはやさ
(1) 薄い濃度

③水のふたを開けて下さい

④水ボトルを置いて並べて下さい

⑤たてに5回ふります

⑥溶け残った塩の量を比較します

⑦傾けて一か所に結晶を集めます

体験2：結晶の大きさと溶解性

【体験2-2】大きな結晶と小さな結晶の溶けるはやさ (2) 濃い濃度

塩が落ちにくい場合は塩のボトルを軽く叩いてみてください

①多量の塩
・黒のNo.2 ・赤のNo.2
を入れて下さい。

体験2：結晶の大きさと溶解性

【体験2-2】大きな結晶と小さな結晶の溶けるはやさ
(2) 濃い濃度

③水のふたを開けて下さい

④水ボトルを置いて並べて下さい

⑤たてに5回ふります

⑥溶け残った塩の量を比較します

⑦傾けて一か所に結晶を集めます

9

2.塩の容姿と性格（概要）：溶解性

2.塩の容姿と性格（概要）：溶解性

同じ重さなら「小さい粒」が溶ける理由
-塩は「水と接している」ところしか溶けません

サイコロ型の結晶を水に入れると①～⑥の「面」が水と接します

塩は水と接したところだけが水に溶けません

2.塩の容姿と性格（概要）：溶解性

結晶を縦横それぞれ二つに切ると

同じ重さの小さな結晶が8個できます

→水に接する面積が増えます

2.塩の容姿と性格（概要）：溶解性

もとの大きい結晶(青い線)と、小さくした結晶(赤い線)8個の水に接する面積を比べると

面積は2倍になります
→水にはやく溶けるようになります

10

2.塩の容姿と性格(概要):溶解性

水分が多い

水分が少ない

粒径が小さい

粒径が大きい

これ以上溶けない

大きな結晶
小さな結晶

濃い濃度
薄い濃度

かき混ぜる時間

溶けやすい
溶けにくい

大きなフレークは溶けにくい

小さなフレークは溶けやすい

大きさが違っても温度が高いときには溶けるはやさは小さい

水分が少ない

2.塩の容姿と性格(概要):溶解性

【体験3】粒の大きさ(溶けるはやさ)が違えば塩味にも違いが?

塩の粒の大きさが味に影響することを体験してみましょう

・体調がすぐれない方、塩分を控えている方は参加をご遠慮ください

体験3:結晶の大きさと塩味の強さ

【体験3】粒の大きさ(溶けるはやさ)が違えば塩味にも違いが?

①小粒の塩(赤)

②大粒の塩(青)

スプーンでおせんべいと同じくらいの量をふりかけて味比して下さい。どちらが塩辛いですか?

①と②の塩を同じ濃度の食塩水にした場合の塩味はどうなるでしょうか?

体験3:結晶の大きさと塩味の強さ

野菜などのアレルギーをお持ちの方は参加をご遠慮ください

アレルギー物質27品目

卵	▲	牛肉	▲	くるみ	▲
乳成分	▲	豚肉	▲	バナナ	▲
小麦	▲	鶏肉	▲	もも	▲
そば	▲	ゼラチン	▲	りんご	▲
そば粉	▲	大豆	▲	あびる	▲
えび	▲	まつたけ	▲	いか	▲
かに	▲	やまいも	▲	いくら	▲
		オレンジ	▲	さけ	▲
		キウイ	▲	さば	▲
		ごま	▲	しょうが	▲

▲は原材料には使用していませんが、本品製造工場での商品の製造に使用しています。(特定原材料7品目のみ記載しています。)

11

本日のメニュー

- 様々な塩の違い
 - 塩の主な形
 - 塩のかたちが違う理由
- 塩の容姿と性格(概要)
 - さらさら性
 - 溶解性
 - 付着性

塩の容姿と性格(概要):付着性

粒の大きさ

水分	多い(5%)	塩1	塩2
	少ない(0.1%)	塩3	塩4

最もゴムボールに付着しやすい塩はどれでしょう?

塩の容姿と性格(概要):付着性

粒の大きさ

水分	多い(5%)	塩1	塩2
	少ない(0.1%)	塩3	塩4

最もゴムボールに付着しやすい塩はどれでしょう?

2.塩の容姿と性格(概要):付着性

水分が多い

水分が少ない

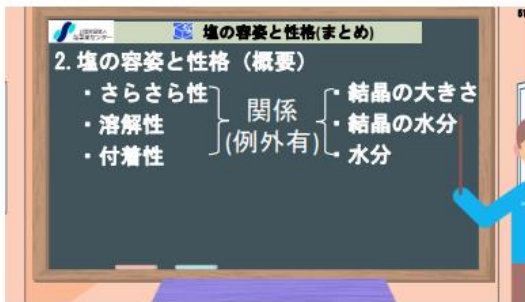
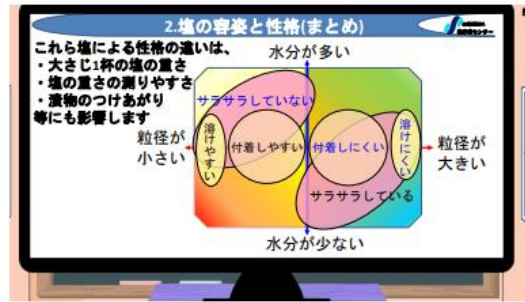
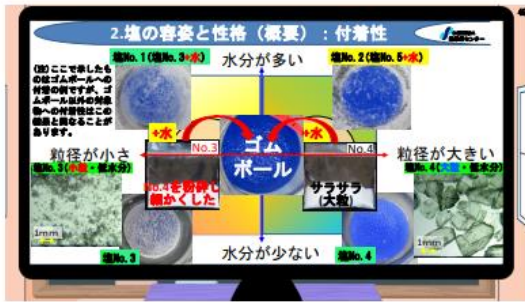
粒径が小さい

付着しやすい

付着しにくい

粒径が大きい

12



広島大学大学院人間社会科学研究科人間生活教育学コースに所属している私は、学部では教育学部人間生活系コースの学生を、大学院では教育科学専攻教師教育デザイン学プログラム人間生活教育学領域の大学院生の教育研究指導に従事しています。本コースは、中学校・高等学校の家庭科教員養成を主に、生活の質の向上に貢献できる人材を育成しています。私が担当している衣生活内容に関わる科目には、衣生活概論、衣生活デザイン論、衣生活科学演習、衣生活実践演習などがあります。快適な衣生活を営むために必要な知識・技能の習得は、家庭科教員免許取得にも不可欠です。そのため被服製作実習を含む内容をそれぞれの科目に取り入れるだけでなく、現在の衣生活における課題を自分の衣生活を振り返りながら考えることができる資質・能力を習得できる内容にしています。

2021年度現在、本コースには、衣生活科学を担当している私のほかに、人間生活（家庭科）教育学、人間発達科学、食生活科学（食品・栄養学、調理科学）、住生活科学、を専門とする教員が在籍しています。学部学生の場合、1年生から2年生にかけて専門教育科目を履修後、3年生後期からは各研究室に所属して、4年間の集大成である卒業論文作成のために研究に取り組みます。

本研究室で行ってきたこれまでの卒業研究のテーマをいくつか紹介します。「柔軟剤の香りの強さと心理的影響に関する研究」「デニムアイテムの流行の変遷とその認識に関する研究」「着装場面における上衣と下衣の配色に関する研究」「衣服の販売形態が購買意思決定に与える影響に関する研究」「学習者の友人関係場面における目標志向性が被服製作に対する意識形成に与える影響に関する研究」「糸と針を使ったものづくり体験講座による世代間交流の企画に関する研究—「のん太の家庭科室」プロジェクトの実践—」など、衣生活に関わる多様なテーマで取り組んでいます。本研究室では、衣生活に関する意識と実態をとらえるため、複数の研究手法を用いるということを原則としています。アンケートだけでなく、官能評価や聞き取り調査など人間の言動や行動を検証することによって、総合的に考察することが可能となります。本コースの学問背景となる家政学が実践的総合科学であることを、卒業研究を通じて再認識してもらいたいと考えています。

提示したテーマにある「のん太の家庭科室」とは、2021年度から広島大学の立地する東広島市と本コースが連携して、「身近な生活の現象、それを取り巻く背景や歴史など、いろいろな年代の方とともに学ぶことができる部屋」として立ち上げたプロジェクトです。今年度は本研究室の学生が主となり、家庭科教員の院生と連携し、また他の研究室の学生や全学年の学生も参加して、背守り刺しゅうの体験講座を、親子や孫と祖母など様々な世代の方を対象に、年間3回実施しました。そしてそれらのイベントを通じて、よりよい地域生活のあり方、ものづくりの楽しさの伝え方、大学生としての役割などを分析した研究を行いました。今後は、さらに本コースの多くの教員が、地域生活と関わる教育研究に取り組めるプロジェクトとなることを期待されています。

2019年の末より世界に広がった新型コロナウイルス感染症によって、生活様式が大きく変化しました。生活と生活者を研究対象としている私たちにとってその影響は大きく、対応に頭を悩ませることもありました。しかし、多様な場面に対する適応力を習得できるチャンスだと学生とともに気持ちを切り替えました。全ての学生たちが感謝の心を忘れず、誠実にものごとに取り組む姿勢と考える力を身につけて社会に貢献できる人になって欲しいと願いながら、私自身も教育研究に励んでいきたいと考えています。



2021年度「のん太*の家庭科室」の開催風景（※のん太は東広島市の観光マスコットの名称です）

*** 〈学校現場から〉 ****
一人1台のタブレット端末を活用した布小物の製作

倉敷市立倉敷第一中学校 森田 美和

1. はじめに

2020年代を通じて実現すべきとされている「令和の日本型教育」では「個に応じた指導」の充実が求められています。公立中学校に在籍する生徒は学力や家庭状況の格差が大きく、生活経験も多様であるため、個に応じた指導、生徒の興味・関心等に応じた学習活動や学習課題を提供することの必要性は多くの先生方が実感しておられることと思います。しかし、技術・家庭科（家庭分野）は教員の一人配置や複数校かけもち、授業時間の少なさ、実習準備の負担や多忙さなど多くの課題が指摘されており、実習における少人数指導や個に応じた多様な教材の提供は困難な状況にあるといえるのではないのでしょうか。

一方で、GIGAスクール構想の実現によりICT環境が整備され、生徒には一人1台のタブレット端末が配付（本校では令和3年8月から全教室で無線LANが使用可能となりました）され、効果的な活用方法を模索しているところです。

倉敷市ではロイノート・スクール（学習支援クラウドサービス）を導入して各授業での積極的な活用を勧めており、家庭科の授業でも2学期以降、様々な場面で活用を試みました。その中のひとつ、「布を用いた製作」の授業についてご報告させていただきます。

2. 授業の概要と工夫

授業は一人1台のタブレット端末を活用して、生徒が興味・関心や技能の習得状況に応じて製作ができるように計画しました。

製作に取り組んだのは倉敷市の児島地区で製造されている畳縁を用いたペンケースです。倉敷市は古くから織維産業が盛んな町として知られており、「From 倉敷を誇りに思える人づくり」を教育の柱として掲げています。家庭科の授業においても地域資源を活用したり、地域のよさを実感できる授業を構想したいと考えていたので、地域が誇れる産業であり、日本の伝統文化の継承という意味でも大切な役割を果たしている畳縁は最適な教材であると考えました。

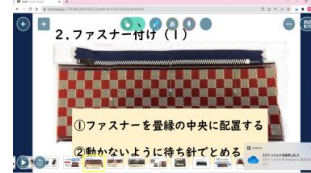
さらに、畳は夏を涼しく、冬を暖かく過ごす先人の知恵であり、畳縁は畳の「裏返し」や「表替え」により畳を長く大切に使うための工夫であることなどから、住居学習や持続可能な社会との関連を図ることで生徒の学びを深めることができると考えました。



製作においては、畳縁はみみを活用することで布端の始末が容易であり、手縫い、ミシンのどちらにも対応できる上、丈夫で比較的扱いやすく、生徒が個別に取り組む課題として、適していたと思います。

授業では25cm程度の畳縁2枚とファスナーのみで製作できる2種類の基本のペンケースに加え、3~4枚の畳縁を使うサイズの大きいもの、マチの有無など、各自の技能や好みに応じて6種類の形から選択できるようにしました。また、畳縁の裏表を替えて使用したり、友だちと交換したりすることにより、様々なデザインのものを工夫して作るすることができます。製作方法も手縫い、ミシン縫いの選択、又は併用も可能としました。

製作の場面では共通する部分のみ一斉指導を行い、その後は各自がタブレット端末を見ながら自分のペースで製作できるようにし、既習事項である基礎縫いやミシンの扱い方についても、必要な場合のみ確認することとしました。事前に製作工程を撮影し、手順を示したスライド資料と基礎縫い動画集を作成して配布し、製作中は個別の質問やつまづいて



3. 授業を終えて

日頃はどちらかというと、製作を苦手とする生徒への支援に時間がかかってしまいましたが、一人1台のタブレット端末を見ながら製作させることで、得意な生徒に対しても個別の支援が可能となりました。自分の技能レベルを勘案し、3時間という限られた時間の中で作品を仕上げるにはどうすればよいか、生徒一人一人が自ら考え、自分のペースで実践する姿が見られました。ファスナーつけは少しレベルの高い技術でしたが、畳縁のみみを利用したことにより取り組みやすく、市販品と比べて遜色のない作品が完成したことは生徒の自信につながり、手作りすることのよさも感じられたのではないかと思います。中にはマチの幅や新たな形を工夫したり、残り布で別の小物を製作するなど主体的に取り組む生徒もいました。

今年は試行錯誤の1年でしたが、今後は家庭科授業における生徒の「主体的、対話的で深い学び」につながる一人1台のタブレット端末の効果的な活用方法を多くの先生方と学び合う機会があれば大変ありがたいと思います。

2021年度 日本家庭科教育学会本部だより

福山市立大学 正保 正恵

日本家庭科教育学会 2021年度 第1回地区会代表者会議議事録

日 時：2021年6月26日（土）14：00～15：10

場 所：Zoomによるオンライン会議

出席者：鎌田・土岐（北海道）、天木・石垣（東北）、仲田・藤田（関東）、尾島・磯崎（北陸）
上野・吉岡（東海）、山本・村上（近畿）、正保（中国）、福井（四国）、浅井・財津（九州）
赤塚、鈴木（真）、堀内、綿引、渡瀬、小高、瀬戸、鈴木（明）、井元、阿部、浜島、中西
佐藤（ゆ）、岡部、岡、伊藤、中山、貴志、矢野

欠席者：河田（中国）、小島（四国）佐藤（園）、佐藤（裕）、望月

議 長：上野（東海）

記 録：吉岡（東海）

事前配付資料

- ① 2020年度第2回地区会代表者会議議事録（案）
- ② 総会資料
- ③ 理事会報告資料（各担当より）
- ④ 2021年度地区会交付金
- ⑤ 功労賞について

◆ 赤塚朋子会長から挨拶があった。

I 2020年度第2回地区会代表者会議議事録について承認された。

II 協議事項

1. 全国大会開催の輪番について

2021年度：北海道地区

2022年度：近畿地区

2023年度：九州地区

2024年度：東北地区

確認された。

2. 地区代表者会議の運営について

2021年度：東海地区

2022年度：北海道地区

2023年度：近畿地区

2024年度：九州地区

承認された。

・東北地区

前年度からの申し送り事項：2024年度に東北地区が担当となっている全国大会の開催について、地区の会員減に伴い、開催が難しい状況にある。

・副会長

この件については理事会で検討する。

・会 長

オンラインでの開催になり、今回の北海道大会ではラウンドテーブルを北海道地区が担い、他は理事会が対応することになった。今後ハイブリッド型での開催が予想される。各地区と理事会が協力してよりよい運営方法を模索する。来年度の近畿大会が一つのモデルになると思われる。

3. その他

III 報告事項

1. 地区会報告（別紙地区会報告参照）

各地区から昨年度の活動報告並びに本年度の活動計画等についての報告があった。

・北海道地区

会報誌を発行した。総会は ZOOM で行った。全国大会の開催にあたり、当地区は人数が少ない状況にある。もともと遠隔であることから双方向での事業を行ってきているが、オンラインだけでは通じにくい部分もある。本年度の全国大会ではラウンドテーブルを担当する。

・東北地区

役員会をメールで行った。昨年度の役員等を本年度にスライドする。会報誌の発行等を含め事業もすべてスライドする。昨年度の会費は徴収しない。2024 年度の全国大会開催に関わる問題は他地区についても同様かと思われる。

・関東地区

昨年度については、総会は書面にて、大会・例会は実施しなかった。会報誌の発行時に講演会も誌面にて行った。研究助成は通常 2 年間であったものを 1 年延期した。役員会はオンラインで実施した。参集が必要な場合は事務局を使用した。本年度総会は書面にて、講演会はオンラインでの実施を予定している。

・北陸地区

昨年度はオンラインで役員会を行った。昨年度予定していた 37 回大会は中止し、本年度引き継ぐ形で、38 回大会としてオンラインにて実施予定である。本年度は役員会の開催を増やす予定である。

・東海地区

昨年度は会報誌を発行した。昨年度及び本年度の役員会・総会・研究会については、イレギュラーな形であるが、6 月 19 日（土）にオンラインにて開催した。本年度は、研究助成も 2 年ぶりに実施することになった。

・近畿地区

昨年度は実践研究発表会・座談会を ZOOM で行った。また会報誌を発行した。本年度は 8 月に実践研究発表会、並びに講演会を予定している。ハイブリッド型での実施予定としている。オンラインでの開催については良い面もあるが、学生の中には、修士課程の 2 年ともオンラインでの開催を残念がる声も挙がっている。今年度の全国大会については、パブリックビューイングも予定している。

・中国地区

昨年度は研究会中止。総会は紙面にて行った。2020 年 10 月に「家庭や地域と連携・協働する家庭科授業-21 世紀型スキルに向き合う」を出版した。また会報を発行した。本年度総会・研究発表会等を行う予定であるが、昨年度研究発表会を中止としたため、総会等との回数にずれが生じてきている。

（北陸地区：37 回研究発表会を中止→本年度 38 回研究発表会としてカウントすることで、総会・会報等と回数を合わせた。）→この方法で中国地区も行うこととする。（正保加筆）

・四国地区

40 周年にあたることから、実践研究誌を発行した。本年度研究発表会を実施できるか否かは難しい状況にあり、今後役員会で紙面掲載かオンラインかを決定する予定である。

・九州地区

昨年度地区総会研究会は中止とした。役員等は本年度に継続した。会報誌も発行した。本年度は 7 月 24 日に地区会（研究発表会）を ZOOM で実施予定である。現在 5 件の申込がある。

○ハイブリッド型・オンライン等が主流となっているが、コミュニケーションを図る上では対面式は有効である。

2. 理事会報告

・事業

- ・6月26日(土)12時より、要旨集ダウンロード可となっている。本年度の大会については、オンラインのメリットを生かして、1週間前から見られるようになっている。
- ・地区会代表者の方々には、座長をお願いしている。訂正版マニュアルを6月28日(月)までに送る。発表者の入れ替わりの時間を参集型よりも長く設けている。何かあれば理事に相談する。座長は開始の5分前には入室してほしい。修正箇所を確認しておく。訂正版マニュアルの画面指示に従うようにしてほしい。

・研究推進

- ・学会誌にも掲載してある。第5次課題研究が進められている。ご協力をよろしくお願いいたします。

・編集

- ・総会資料(p2)にも掲載されているように、投稿数が増えている。授業実践のひろばへの投稿も増えている。シリーズ家庭科教育とSDは、2022年2月1日号まで続く予定である。

・財務

- ・総会資料(p7)にも掲載されているように、昨年度は例年とは異なる状況となった。オンライン大会では多くの参加があり、黒字となった。また理事会がすべてオンラインになり、旅費・交通費をおさえられた。本年度は、大会への参加は250名となっている。およそ35万円の黒字を見込んでいる。
- ・地区会交付金については、6月1日現在の会員数で算出した。これまでとほぼ同額である。

・渉外広報

- ・7月の全国大会終了後地区会の資料も新しくする。地区会ホームページは6月10日現在、新しいものは2地区のみである。7月中に最新版に更新し8月中に整える。
- ・メルマガを配信する。地区会への加入者増のためのメッセージも配信する等、有効に活用してほしい。
- ・一昨年度より「家庭科教育関連企画のお知らせ」コーナーを設けているので、活用してほしい。会員個人からの申し出であっても、全国に広報する必要性の高いもの等の条件を満たせば掲載する。地区の方々に伝えてほしい。

・庶務

- ・7月3日(土)13時30分より総会を行う。各地区代表による地区会報告を予定している。
- ・新体制に向けて総会資料の内容に誤りがあれば申し出る。

・その他

・会長

これまでは大会開催時に決議を行ってきたが、今回は初の試みとして、声明を発表する。閉会の挨拶のところで行う予定である。理事会では承認されている。「家庭科はSDGsを牽引してきた。今後も大きく担っていく。」ということ伝えてほしい。

3. 功労賞推薦について

・副会長

- ・5年ごとに行っている。来年度の近畿大会が65回目となるので、そこで表彰の場を設ける。各地区10月末日に事務局に報告する。第2回地区会代表者会議の場で確認し、来年度の大会での表彰に繋げる。

4. その他

特になし

◆ 赤塚朋子会長から挨拶があった。

- ・第2回目の地区会代表者会議もよろしくお願いいたします。
- ・総会を機に会長を終える。
- ・今後の大会運営は、大きな課題である。よい方向に向けて学会が活性化するようよろしくお願いいたします。

日本家庭科教育学会 2021年度 第2回地区会代表者会議議事録

日 時：2021年12月5日（日）16：00～16：45

場 所：Zoomによるオンライン会議

出席者：土岐（北海道），天木・石垣（東北），檜府・藤田（関東），尾島・磯崎（北陸）

上野・吉岡（東海），山本・村上（近畿），鈴木・西尾（中国），福井・小島（四国），財津・貴志（九州），堀内，工藤，鈴木（真），綿引，渡瀬，鎌野，杉山，川邊，野中，倉持，仲田，中西，小清水，岡部，中山，荒井，志村，飯野，望月

欠席者：鎌田（北海道），得丸，萬羽，永田，佐藤

議 長：上野（東海）

記 録：吉岡（東海）

事前配付資料

- ① 2021年度第1回地区会代表者会議議事録（案）
- ② 2021年度第2回地区会代表者会議議事次第
- ③ 地区会報告（中国地区会）
- ④ 理事会報告（2021-22メルマガ・HP年間計画）
- ⑤ 理事会報告（教科教育学コンソーシアム）

I 2021年度第1回地区会代表者会議議事録について承認された。

II 協議事項

1. 全国大会開催の輪番について

2022年度：近畿地区

2023年度：九州地区

2024年度：東北地区

2025年度：中国地区

承認された。

・東北地区

2024年度に東北地区が担当となっている全国大会の開催については、11月に役員で話し合いを行った。オンライン開催か否かによっても負担は異なる。他地区も同じ問題を抱えており、会員不足に伴い開催が難しい状況にある。ボランティア的な精神に頼るところがある。体制として現状では無理がある。東北地区だけの問題ではない。引き受けるにあたり、制度的に持続的な方法を考えていく必要がある。

・理事会

この件については、現在理事会で審議中である。今後審議の結果を知らせる。

2. 地区代表者会議の運営について

2022年度：北海道地区

2023年度：近畿地区

2024年度：九州地区

2025年度：東北地区

承認された。

3. その他

III 報告事項

1. 地区会報告

各地区から本年度の活動報告並びに今後の活動計画等についての報告があった。

・北海道地区

2月に総会をZoomにて実施予定である。

・東北地区

11月1日に役員会を開催した。庶務・会計報告等の承認を経て、その後総会をメール会議にて開催した。オフラインでの開催も検討したが、コロナの状況を鑑み、オンラインでの実施となった。本年度研究発表会の申し込みは9件である。今後地区会誌を本年度中に発刊予定である。

・関東地区

7月17日に総会（紙面開催）・研究会（オンライン開催）を実施した。「コロナ禍と家庭科 1年を振り返って」と題して、中・高家庭科教員による実践報告とグループでの話し合い等を行った。約40名の参加であった。研究助成については、コロナ禍で研究が進まなかったということを踏まえ、本来は2年間での取組であるが、1年延長とした。年に3万円の助成である。現在4グループが取り組んでいる。例会は、12月11日（土）にオンラインで実施予定である。研究助成グループによる中間報告を予定している。また講演会も実施予定である。「新科目公共の内容と成年教育」と題し、明治大学特任教授の藤井剛先生にお願いしている。約70名の参加申込がある。3月に会報39号発刊予定である。来年度の大会（総会・研究会）については、7月に実施予定である。7月に新体制として切り替わる。役員会は年に8回行う予定であり既に3回行ったが、今のところすべてオンラインで行っている。

・北陸地区

8月6日に第38回総会・研究発表会・講演会をオンラインで実施した。昨年度は中止としたため、今年度は対面で行いたかったが、コロナの状況を鑑み、オンラインで行った。役員会の開催数を増やし、近隣の大学等で支え合いながら開催できた。参加人数は例年通りであった。授業研究会もオンラインで実施している。例年は各地区の会員増をめざし、学校現場への広報等行っていたが、本部のホームページを用いて、入会案内を掲載し、会員増に努めている。

・東海地区

6月19日に新旧役員会・総会・研究会を実施した。研究会は、「コロナ禍での小中高校及び大学授業等実態について」をテーマに、意見交換を行った。研究活動助成については、テーマ「持続可能な社会の構築に繋がる家庭科の内容に関する研究」で募集した結果、2件の応募があり、いずれも承認されたことから、現在研究活動中である。

・近畿地区

地区会は、7月の全国大会の際にパブリックビューイングとしての会場を提供し、ハイブリッドでの参加とした。地区会総会も、ハイブリッドで行った。あんびるえつこさんによる講演会・ワークショップはコロナの感染状況を鑑みZoomで行ったが、これについてもハイブリッド型で実施した。これを受けて、地区会としては、キャッシュレス時代の金融教育に関する特別プロジェクトを立ち上げた。来年度全国大会で一部発表予定である。また今年度末に会報発行も予定している。

・中国地区（別紙参照）

事業報告としては、7月にメール役員会議を行った。8月にもオンラインで役員会を行った。8月28日には山口大学が中心となり、地区の総会・発表会・講演会を行った。講演会は、コロナ禍において、オンライン等での動画実験等に役立つということを鑑み、「塩のふしぎ入門」を、公益財団法人塩事業センターの谷井潤郎先生を講師に実施した。研究発表は3件である。9月に役員交代をした。2年間の任期である。今年度3月に会報42号を発行予定である。11月に新共同研究課題を立ち上げた。岡山大学の佐藤先生が取りまとめて下さる。テーマは、「コロナ禍における家庭科の授業」である。来年度は8月に広島大学で研究発表会・講演会等を予定している。状況によりオンラインか対面かを検討していく。

・四国地区

7月31日にオンラインで総会・研究発表等を開催した。4件の研究発表があった。研究費の補助金助成については、今年度該当はなかった。今年度末に発刊する家庭科教育実践研究誌の編集を現在進めている。来年度は7月に香川大学で大会開催予定であるが、オンラインか対面かは状況による。

・九州地区

7月24日にオンラインで総会・研究発表会を行った。事務局は琉球大学である。共同研究については、今回「家庭科教員としての資質や素地に関すること」等をテーマに、立ち上がり、2件の研究が進められている。いずれも3万円の研究助成としている。全国大会の運営方法については、各県1名以上の実行委員を募り、10月に15名で実行委員会を立ち上げた。地区内においても移動が大変難しいこと

等も踏まえ、オンライン開催であれば実施可能なのではないかとこのころに話が進んでいる。オンライン開催については、現場の教員にとっても参加しやすいものであることから、積極的に参加できる会になるよう検討を進めている。来年度は7月23日に地区会開催予定である。

2. 理事会報告

- ・本会議は、各地区のリアルな声が聞ける貴重な場である。
- ・12月5日（日）午前中に理事会を行った。
- ・渉外広報（別紙メルマガ配信・HP更新 年間計画概要参照）来年の1月から6月までの予定を示した。メルマガについては地区会からの連絡を掲載するものであることから積極的に活用してほしい。原稿は、毎月15日までに提出してほしい。HPについては、学会全体のことに加え、地区会に特化したページも設けている。今年度の更新がまだの地区については、更新をお願いしたい。WEBページも活用してほしい。

・教科教育学コンソーシアムについて

荒井紀子先生には理事として参加していただいている。今年の3月に新たに立ち上げたものである。3月14日に設立記念シンポジウムが行われた。加盟学会一覧からわかるように、ほぼすべての教科教育学学会が入っている。事務局は当面広島大学の教科教育学会となる。ホームページは今後充実させていく。3月に実施したシンポジウムについては資料もあるので、興味があれば見ていただきたい。

コンソーシアム立ち上げの主旨は、(1)教科教育学に関する学協会等の相互の交流と連携の促進(2)教科教育学に関連する国内外の研究者、教育者、行政官及び市民の交流と連携の場の提供(3)将来の教育、学校教育並びに教科教育に関するビジョンや研究のパラダイムの提案である。

代表の深沢先生より、「世界における教科教育に対する思潮の高まりを受けて、各教科の独自性、固有性を保持しながら、同時に教科に通底する原理・原則などを共有し、これからの教科教育研究と実践に新たな動きを創出することを目指す。その活動を通じて、各教科はオーケストラの各パートのように協奏することでお互いの価値を高め合うことが期待できる。今後、その活動を広げ、日本国内だけでなく、東アジアに始まる世界の教科教育の向上につながる研究連合体へと発展することをねらっている。」とのことである。加盟学協会年会費は2万円である。今後の活動予定としては、研究ジャーナルの刊行を予定している。特集論文（査読あり）、一般論文（査読あり）、書評、加盟学協会の研究、活動に関する記事等である。また、編集委員会を設置する予定である。各学会より1名推薦することになる。さらに、研究タスクフォースの設置については、研究推進委員会を設置し、研究の推進やシンポジウムの企画等を予定している。各学会より2名推薦することになる。双方向の刺激があるとよい。

第2回役員会にて、本学会からは、理事経験者がふさわしいと判断し、編集委員として井元りえ先生を、また研究推進委員として荒井紀子先生と貴志倫子先生を推薦し、理事会で承認された。よろしくお願ひしたい。

3. 功労賞推薦について

・庶務

来年度の表彰に向けて、各地区より推薦者を挙げていただいた。現在本部で内規に沿って確認している状況にある。決まり次第地区に報告する。2月の理事会で確定予定であることから、遅くとも今年度中には地区に報告する予定である。

4. 新入会員情報の共有について

・庶務

現在使われている学会への入会申し込み書には、希望される地区会について記載していただく欄がある。これは本来本部から該当地区会に報告するものであった。但しこのフォーマットを採用した後、即ち2014年度以降に入会された会員の情報提供が一部手違いによりなされていなかったことが明らかとなった。2014年度以降の新入会員の情報については該当地区会に情報を提供する。また今後入会される方の情報についても該当地区会に情報を提供していく。よろしくお願ひしたい。

5. その他

特になし

2022年 日本家庭科教育学会中国地区会



総会 及び 研究発表&講演会

2022年

受付開始

8月27日 土 12:30-16:30 (予定)

会場：広島大学教育学部K102教室（オンライン環境併設）

総会 13:00~13:30

研究発表 13:45~14:45

講演会 15:00~16:30

参加費
無料

時代を切り拓いてきた家庭科
～家庭科研究からみた過去・現在・未来～

講師：多々納 道子 先生（島根大学名誉教授）

研究発表のお申し込みについて

研究発表を希望される方は、右のQRコード
又はURLにて、必要事項をご入力の上、
5月31日（火）までに送信してください。



<https://forms.office.com/r/WhBG8bmBtx>

お問い合わせ先

〒739-8524 東広島市鏡山1-1-1
広島大学大学院人間社会科学研究科 人間生活教育学コース 人間生活教育方法学研究室内
TEL：(082) 424-6851（鈴木） E-mail：d191477@hiroshima-u.ac.jp（梶山）

【事務局だより】

<新入会員> (敬称略)
(広島) 弘下由菜 森田美和

<自動退会該当予定会員> (敬称略)
(島根) 三澤あゆみ 小川詩織 桐原加奈 (山口) 堀川万里子

※以上の方は、8月の総会までに連絡なき場合は、自動退会とさせていただきます。

1. 会報執筆について	<学校現場から>	<研究室だより>
42号(令和4年度)	岡山	広島
43号(令和5年度)	広島	山口
44号(令和6年度)	山口	鳥取
45号(令和7年度)	鳥取	島根
46号(令和8年度)	島根	岡山

2. 地区会費の納入のお願い

地区会費の納入状況についてのお知らせを同封しています。2022年度の地区会費とともに未納分の地区会費を下記の口座に納入して下さいませう、お願いいたします。
未納期間が4年を超えますと、自動退会となりますので、ご注意ください。

【地区会費】

銀行口座	ゆうちょ銀行	記号	15500
番号	30819531	加入者名	日本家庭科教育学会中国地区会
年会費	1,000円	入金	不要

他金融機関からですと

店名	五五八(読み ゴゴハチ)	店番	558
預金項目	普通預金	口座番号	3081953

【入会申し込み方法】

下記事務局までお問い合わせ下さい。

3. 事務局連絡先

住所・勤務先の変更などがございましたら、事務局までお知らせ下さい。

〒739-8524 東広島市鏡山 1-1-1 広島大学大学院人間社会科学研究科人間生活教育学コース
人間生活教育方法学研究室内 庶務担当：梶山曜子
TEL：(082) 424-6851 (鈴木) E-mail：d191477@hiroshima-u.ac.jp (梶山)

【編集後記】

会報第42号をお届けいたします。会報の発行に当たりまして、年度末のお忙しい中、ご執筆くださいました先生方に深く感謝申し上げます。会員の皆様には会費納入のご協力をお願いします。

また、氏名や連絡先の変更が生じた場合は、事務局までお知らせくださいますようお願いいたします。メールアドレスもお知らせくださるとありがたいです。

(梶山曜子)